

2024年3月11日

記者会、記者クラブ 各位

自然と社会の共発展を支える新たな融合環境科学の創生を目指す

本学は4月1日に環境社会共生体研究センターを設置します

本学は、これまでに培った環境研究分野の成果を、環境課題と社会課題が複雑化・拡大する現代から近未来に対応する学術として発展させ、さらに社会と連携した課題解決策の共創を推進するために、流域圏科学研究センター、高等研究院地域環境変動適応研究センター、高等研究院脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センターの融合・発展的改組を実施し、4月1日(月)に高等研究院環境社会共生体研究センターを設置します。

本センターは、地球温暖化の緩和・気候変動への適応、生態系サービスの持続可能な利活用といった地域での地球規模環境課題の解決に必要な専門知・科学知を包括的にステークホルダーに提示し、解決策を共創します。このために以下の取組を行います。

- (1) 流域環境診断手法の開発
- (2) 環境・社会データマイニング技術開発
- (3) 気候変動影響評価・適応策創出機能の強化
- (4) 日本版フューチャー・アース活動創出を推進し、『自然と社会の共発展を支える新たな融合環境科学』の創生

また、3月26日(火)には本センターの前身となる流域圏科学研究センターが下記のシンポジウムを開催し、環境社会共生体研究センターの概要について説明します。

つきましては、ぜひ取材いただきますようお願い致します。

記

流域圏科学研究センターシンポジウム

岐阜大学の流域環境研究の30年とこれから

～流域圏科学研究センターから環境社会共生体研究センターへ～

日 時： 令和6年3月26日(火)13:30-16:05

場 所： 岐阜大学工学部 111 教室(岐阜市柳戸 1-1)及びオンライン配信

プログラム： 13:30～13:40 開催挨拶 吉田和弘 学長

13:40～14:50 第1部：岐阜大学の流域環境研究の30年の歩み

時代とともに歩む流域環境の研究教育

流域圏科学研究センター教授 李 富生

炭素循環研究拠点・高山試験地 ～ 30年の歩みと展望～

流域圏科学研究センター准教授 斎藤 琢

流域水環境分野で活躍する国際環境リーダーの育成

流域圏科学研究センター准教授 魏 永芬

環境と社会の変動に適応した地域を実現するための「岐阜モデル」

地域環境変動適応研究センター センター長

流域圏科学研究センター 准教授 原田守啓

Press Release

15:05～15:55 第2部:岐阜大学の環境研究のこれから

地球環境研究と流域環境研究のギャップを埋める「環境社会共生体」という視点

名古屋大学 宇宙地球環境研究所

名古屋大学フューチャー・アース研究センター

教授 檜山哲哉

環境社会共生体研究センターが目指すもの

流域圏科学研究センター

地球環境変動適応研究センター

脱炭素・環境研究連携支援センター 教授 村岡裕由

15:55～16:05 閉会挨拶 王志刚副学長

※詳細はチラシをご覧ください。

環境社会共生体研究センターHP

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~censs/>



環境社会共生体研究センターHP

今回のリリースはミライエ構想のうち、
右記を推進するものです。

「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想:

https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/gifu_miraie.html



岐阜大学は、国立大学法人東海国立大学機構が
運営する国立大学です。

東海国立大学機構 HP <https://www.thers.ac.jp/>



問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学

流域圏科学研究センター 村岡裕由

TEL:058-293-2064

E-mail:muraoka.hiroyuki.y6@f.gifu-u.ac.jp

Press Release

岐阜大学工学部 111 教室案内図

